

地域一体となり、害獣から村を守ろう！

—飯舘村の農作物の獣害防止と周辺の森林の活用を考える—

福島大学 いたて環境班

要約

飯舘村では獣害が多く、村の人は特にサルに悩まされている。まず、被害の確認のためモデル圃場を作成し、センサーカメラで監視した。得られたデータを用いて村の人にわかりやすく村の対策の現状と、問題点、今後どのような対策をしていくべきかを提示していく。

深刻な獣害の背景

- 長期避難による人口の減少・高齢化
→獣害対策に割ける体力がない
- 電気柵などの対策をしているが住民ごとに差がある
→野生動物が弱い対策を突破する
→学習し、しっかりした対策も突破してしまう



↑センサーカメラが捉えた木から侵入するサル

課題と方法1

被害や対策の実態と対策の効果の把握

- ・集落環境診断の実施
- ・モデル圃場の作成
- ・センサーカメラを設置し、圃場周辺の動物の行動から対策の効果を確認

結果1

- ・住民の対策の現状や、被害の程度を確認できた。
- ・モデル圃場に防護柵を設置した結果、イノシシには対策の効果が出ていた。サルには侵入されたが、侵入経路を確認



課題と方法2

地域を巻き込んだ対策の実施

- ・QGISを使ったデータの可視化(対策、放射線量、動物の行動)
- ・電気柵、防護柵設置のポイントをまとめたチェックリスト作成
- ・住民に向けた講習会の実施

結果2

- ・住民約30人に講習会を行い、正しい対策方法を伝えることができた。
- ・測定したデータ(放射線量、動物、防護柵など)を地図にまとめた。
- ・作成した地図・チェックリストは住民の対策の改善に用いる。

考察・残課題

モデル圃場を作り、センサーカメラを用いてイノシシやサルの様子を観察したことで、現在の対策は正しいのか確認できた。加えて、サルの侵入経路が判明し、より効果的な対策を行いやすくなった。また、獣害の対策は継続的に行うことが重要であり、今後いかに高齢者でもできる対策を編み出していくかが重要だ。



←周辺の森林活用を検討するため、モデル圃場の周辺の放射線量データを測定した。色が濃いほど線量が高く、場所によって違いがあることがわかる。